

元会員の論文捏造に関する理事会声明

【2017年5月9日】

日本麻酔科学会は、昨年5月に本学会会員（当時）である斎藤祐司氏の論文が、海外のエディター連合から捏造の疑いがあるとの情報を受け「斎藤祐司氏論文調査特別委員会」を立ち上げ調査いたしました。調査結果から調査対象とした約40編のうち、麻酔科関連ジャーナル「Anaesthesia」における斎藤氏論文の捏造疑惑に関する論説から、データの改ざんまたは捏造がほぼ確実に判定できる論文が数編あり、その他に研究倫理的に著しい問題があると解される論文が数編あることが判明いたしました。

本調査を開始した段階で、斎藤氏は、本学会の退会届を提出し、法令および定款に照らし合わせた結果、本学会としてはこれを受理せざるを得ないとの判断をいたしました。しかし、この調査結果を受け本学会は、本邦の麻酔科医および研究者全般の信用を多大に失墜させ、国民への安全な医療提供にも多くの悪影響を与えた同氏には、麻酔科医師、研究者としての資質に著しく欠けると判断し、永久に本学会への再入会を認めないことと致しました。

関連諸団体、施設におかれましても、このような案件を二度と繰り返さないためにも、同氏に対するこれらの事実を公表して、注意を喚起致す次第です。

本学会は、今後、研究施設の責任者、筆頭著者、共著者の医学研究施行並びに報告上の責務に関して、文部科学省並びに厚生労働省で定めた「医学研究に関する倫理指針」や「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を、学術集会、セミナー等で、さらには、ニューズレター、雑誌、論文等も活用して、徹底して周知し、再発防止に努めることを理事会で確認し、ここに声明として明らかに致します。

2017年5月9日

公益社団法人 日本麻酔科学会 理事会